

教科名	国語	科目名	現代文B	学年	2学年
教材	教科書	精選 現代文B 新訂版		単位数	3
	副教材	①常用漢字の1・2トライ(浜島書店) ②新版六訂 カラー版 新国語便覧(第一学習社) ③精選 現代文B 新訂版 学習課題ノート(大修館書店)		履修区分	共通
学習の目標	1 近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高める				
	2 ものの見方、感じ方、考え方を深め、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。				
	3 国語に主体的に取り組む態度を養います。				
学習の進め方	1 適宜漢字のテストを実施します。				
	2 現代文(随想・小説・評論・詩歌)を読んで、それぞれの作品に対する理解を深めます。				
	3 表現技法を理解し、駆使しながら豊かに表現できる能力を養います。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考査等
前	4	○オリエンテーション ○広がる想像力/・ミロのヴィーナス	・現代文Bの学習について ・表現技法を理解し、筆者の美についての発想をとらえる。	
	5	○名作を読む(一)/山月記	・漢文調の文体や寓意的な表現に注意しながら内容をとらえ、人物、情景、心情などを読み味わう。特に、自分と「自己」との関係について考える。	
	6			
	7	○倫理と心理/・こころは見える?	・発想の転換から導かれる論理展開を理解する。	
	8	○こころに触れる/・檸檬	・登場人物像、心情の推移を的確に把握する。 ・描写、内的感覚をとらえ表現を読み味わう。	
	9	○メディアと情報/ 「考える葦」であり続ける	・筆者の主張を読み取り、情報やメディアに対する理解を深める。	[期末考査] ノート提出
前期目標				
後	10	○こころの交流/山椒魚	・行動や心理の変化を正確に把握し、寓話的な話のおもしろさを味わう。	
	11			
	12	○ことばの力/I was born	・詩歌の技法、表現の特色などを理解する。 ・作者の思想、感情を理解する。	
	1	○他者への視点/ 敬語への自覚、他者への自覚	・論理展開、要旨を叙述に即時的確にとらえる	
	2	○日本語の歩み/たけくらべ	・雅俗折衷の文語体の文章に慣れ親しみながら、描かれた人物、情景、心情などを読み味わう。	[期末考査] ノート提出
3				
後期目標				

評価方法	・定期考査・小テストの成績、課題やノートの内容や提出状況、日常の授業への参加態度等で評価します。 ・国語科の観点別学習状況の評価の5観点に立ち総合的に評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	表現、理解のための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字を身につけたか。	30%
	【思・判・表】	自分の考えを発展させながら、目的に応じた文章の読み取りが出来るか。	50%
	【主体的態度】	積極的に言語活動に取り組み、言語文化に対する関心を持っているか。	20%

教科名	地理歴史		科目名	地理A	学年	2 学年
教材	教科書	基本地理A (二宮書店)、基本地図帳 改定版 (二宮書店)			単位数	2
	副教材	基本地理Aワークブック (二宮書店)			履修区分	共通
学習の目標	1 世界で見られる具体的な地理的事象を通じ、知識を一般化できる能力を身につけます。					
	2 各地の文化や自然を理解し、それを表現できる力を身につけます。					
	3 地図や資料を読解・解釈し、それを思考・判断・表現する力を高めます。					
学習の進め方	1 前期は自然地理と地誌を、後期は地誌、地球の諸問題や防災・地形図について学びます。					
	2 地図・資料の読解・解釈を通して、思考力・判断力・表現力を高めます。					
	3 ワーク提出や小テスト・定期考査を通して、学習した内容の理解を深めます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	考査等	
前	4	○オリエンテーション ○球面状の世界	・地球儀と地図 ・国と国の結びつき ・地図で見える世界のつながり	※考査毎にワーク・ファイルを提出します。	
	5	○自然・生活・文化と私たちの暮らし	・地形と私たちの暮らし ・気候・経済・文化と私たちのくらし	・小テスト ・レポート	
	6			・中間考査 ・ファイル提出	
	7	○世界各地の生活・文化	・東アジア (中国・朝鮮)	・レポート	
	8		・東南アジア		
	9		・南アジア ・中央アジア・西アジア・北アフリカ	・期末考査 ・ファイル提出	
	前期目標				
	後	10		・サハラ以南のアフリカ ・ヨーロッパ	・単元テスト
		11		・ロシア ・アングロアメリカ	・ファイル提出
12			・ラテンアメリカ ・オセアニア	・レポート	
1		○地球的課題	・人口問題、食料問題 ・居住・都市問題、資源エネルギー問題 ・環境問題		
2		○生活圏の諸課題	・地図とGIS ・日本の自然環境と防災	・期末考査 ・ファイル提出	
3			・生活圏の諸課題と地域調査	・レポート	
後期目標					

評価方法	・定期考査・小テストの成績、ワーク・ファイル・レポート、グループワーク、振り返り等で評価します。 ・地理歴史科の観点別学習状況の評価の3観点を基本として評価します。		
評価の観点	知識・技能	地理的な事象について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。(考査、小テスト、レポートや提出物の内容)	40%
	思考・判断・表現	地理的な事象に関する意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察し、構想、表現、議論ができるか。(考査、レポート、提出部の内容)	30%
	主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に解決しようとしている。(レポート、提出物の内容)	30%

教科名	数学	科目名	数学A	学年	2 学年
教材	教科書	改訂版 新 高校の数学A (数研出版)		単位数	2
	副教材	基本と演習テーマ 数学I+A (数研出版)		履修区分	共通
学習の目標	1 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深める。				
	2 場合の数と確率を事象の考察に活用できるようにする。				
	3 整数や図形の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。				
学習の進め方	1 前期は教科書の内容を中心に、集合、場合の数、確率を学ぶ。				
	2 後期は教科書の内容を中心に、整数のさまざまな性質や図形の性質を学ぶ。				
	3 毎時の授業で課題をだし、学習習慣を定着させつつ理解を深める。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション 1章：場合の数と確率	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学Aの学習について</li> <li>数え上げの原則</li> <li>順列</li> </ul>	*年間を通して小テストを行っていく
	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>組み合わせ</li> <li>同じものを含む順列</li> </ul>	
	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>事象と確率</li> </ul>	
	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>確率の基本性質</li> <li>独立な試行の確率</li> <li>反復試行の確率</li> </ul>	
	8			
	9	2章・整数の性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>条件付確率</li> <li>約数と倍数、素因数分解</li> <li>最大公約数と最小公倍数</li> <li>ユークリッドの互除法</li> </ul>	・期末考査
前期目標				
後	10		<ul style="list-style-type: none"> <li>不定方程式</li> <li>記数法</li> </ul>	
	11	3章：図形の性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>小数と分数</li> </ul>	
	12		<ul style="list-style-type: none"> <li>三角形と比、重心・外心・内心</li> <li>円に内接する四角形、円と接線</li> </ul>	
	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>接線と弦のつくる角、方べきの定理</li> </ul>	
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>円と円の位置関係</li> <li>空間図形</li> </ul>	・学年末考査	
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題学習</li> </ul>		
後期目標				

評価方法	・定期考査、単元テスト、ノートの提出、日常の授業への参加態度等で評価する。		
評価の観点	【知識・技能】	積極的に学習し、自己調整をすることが出来ているか。	40 %
	【思考力・判断力・表現力】	事象を数学的に表現・処理する仕方や技能を身につけているか。	30 %
	【主体的に学習に取り組む態度】	日常のモデルを数式に置き換えることで課題解決ができ、それをまとめることができるか。	30 %

教科名	理科	科目名	生物基礎	学年	2
教材	教科書	改訂版 新編 生物基礎		単位数	2
	副教材	四訂版 リードLightノート 生物基礎		履修区分	共通
学習の目標	1 生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。				
	2 日常生活との関わりを通して、生物や生命現象に対する興味・関心を高める。				
	3 観察、実験などを通して生物学を科学的に探究する姿勢を身につける。				
学習の進め方	1 教科書を中心に、遺伝子や体内環境、生態系についての基本知識を習得します。				
	2 実験や観察を通して、科学的に考え、探究する力を身につけます。				
	3 プリントやレポートを通して自身の考えを表現する力を身につけます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等	
前	4	第1編 生物と遺伝子 ○生物の特徴	・生物の多様性と共通性		
	5		・エネルギーと代謝 ・光合成と呼吸	・小テスト	
	6	○遺伝子とそのはたらき	・遺伝情報とDNA	・中間考查 ・ノート、ファイル提出	
	7		・遺伝情報の発現 ・遺伝情報の分配		
	8	第2編 生物の体内環境の維持 ○生物の体内環境とその維持	・体内環境としての体液		
	9			・期末考查 ・ノート、ファイル提出	
	前期目標				
	後	10		・腎臓と肝臓による調節	・小テスト
		11		・神経とホルモンによる調節 ・免疫	・中間考查 ・ノート、ファイル提出
12		第3編 生物の多様性と生態系 ○植生の多様性と分布	・植生とその成り立ち ・植生の移り変わり		
1			・気候とバイオーム		
2		○生態系とその保全	・生態系とその成り立ち ・物質の循環とエネルギーの流れ	・学年末考查 ・ノート、ファイル提出	
3			・生態系のバランスと保全		
後期目標					

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考查、小テストの成績、プリントの取り組み状況、宿題の提出状況、レポート等の表現力、実験・観察レポートの内容で評価します。</li> <li>理科の観点別学習状況の評価の3観点を基本として評価します。</li> </ul>		
評価の観点	【知識・技能】	定期考查、ノート、ファイル、レポートの状況、授業時の様子 など	30%
	【思・判・表】	定期考查、実験レポート、ファイルの状況	30%
	【主体的態度】	授業時の様子、提出物等の提出状況	40%

教科名	保健体育	科目名	体育	学年	2学年
教材	教科書	現代高等保健体育		単位数	2
	副教材	ステップアップ高校スポーツ		履修区分	共通
学習の目標	1 体育活動をとおして運動の楽しさや喜びを味わい、技能向上を目指す。				
	2 課題を発見し、解決に向けて考えたり判断したことを他者に伝える力を養う。				
	3 公正に取り組み、互いに協力しながら健康・安全を確保し、運動に親しむ態度を養う。				
学習の進め方	1 基礎・基本による技能定着、技能テストを通して表現したり、課題解決能力を身につけま				
	2 一斉授業や班活動による集団学習を通して参画、公正、協力、責任の態度を養います。				
	3 学習した内容をワークシート等で振り返り、理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	○オリエンテーション ○新体力テスト ○体づくり運動	・自己の体力に気付き、向上させていく。 ・体力トレーニングについて	・新体力テストの実施
	5	○体づくり運動 ○跳び箱 ○体育理論 → 安全の確保について	・手軽な運動、実生活に生かす運動 ・跳び箱の基本技能の習得 (能力に応じて技を選択し、連続技を組み立てる。)	・技能テストの実施
	6	○ダンス ○体育理論 →	・フォークダンス、創作ダンス、 現代的なリズムのダンス ・文化的特徴や発展について	・発表会の実施
	7	○水泳 →	・主にクロールの習得、その他の泳法習得 (さまざまな泳法で泳ぐことを目標に行う。)	・技能テストの実施
	8	○体育理論 →	・技能の上達過程と練習	
	9	○ニュースポーツ ○体育理論 →	・ボッチャ、キンボール ・オリンピックと国際理解 ・ドーピング問題	

前期目標	・基礎・基本の段階的な指導を行い、運動の合理化や課題解決能力を身につける。 ・仲間と協力して行うことや表現することを目指す。 ・健康・安全に留意させ、自己防衛力や危機管理能力を向上させる。			
------	--	--	--	--

後	10	○球技	・バレーボール(ネット型) (個人技能を身につけ、戦術を生かした攻防を展開する。)	・技能テストの実施
	11		・バスケットボール(ゴール型) (個人技能を身につけ、戦術を生かした攻防を展開する。)	・技能テストの実施
	12		・キックベース(ベースボール型) (戦術を活かした攻防を展開する。)	・技能テストの実施
	1	○体育理論 →	・スポーツの技術と戦術について	
	2	○スキー →	・ゲレンデスキーの滑走法を理解し、習得します。	・技能テストの実施
	3	○体育理論 →	・生涯スポーツの見方・考え方	
	3	○選択球技 ○体育理論	・バドミントン、卓球の選択 ・ライフスタイルに応じたスポーツ	

後期目標	・自分の意見や他者の意見を伝えたり理解し、課題解決を目指す。 ・体力の構成要素である行動力と生存力の保持増進を目指す。 ・次年度に向け、応用的な運動領域に触れ、継続的な技能の向上を目指す。			
------	--	--	--	--

評価方法	・技能テストだけでなく、授業に取り組む意欲や、公正、協力、責任などの態度、ワークシートの提出状況等を総合的に評価します。			
------	--	--	--	--

評価の観点	【知識・技能】	・運動の合理的、計画的な実践を通して技術だけでなくルール等を身につけているか。	50%
	【思・判・表】	・課題を発見し解決の仕方や気付いたことについて事故や仲間の考えたことを他者に伝えたりしているか。	30%
	【主体的態度】	・公正に取り組み、仲間と協力したり、関わろうとしてしているか。	20%

教科名	保健体育	科目名	保健	学年	2 学年
教材	教科書	現代高等保健体育		単位数	1
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 個人や社会生活における健康・安全について理解を深めます。				
	2 健康について自他や社会の課題を発見し、解決に向けて思考し判断する力を養います。				
	3 生涯を通じて自他の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養います。				
学習の進め方	1 個人や社会生活における様々な課題を通して、解決する方法などについて学びます。				
	2 グループワークを通して自他の考えを共有し、他者に伝える力を身につけます。				
	3 健康・安全について単元テストやワークシートを用いて理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等	
前	4	○オリエンテーション (1) ○ライフステージと健康 (1) ○思春期と健康 (2)	・ 2 学年の保健の学習について ・ 思春期の体と健康	・ 各単元テスト	
	5	○性意識と性行動の選択 (2) ○妊娠・出産と健康 (2) ○避妊法と人工妊娠中絶 (2)	・ 性意識の変化と異性の尊重 ・ 受精・妊娠・出産と健康 ・ 避妊法と対策	・ 各単元テスト	
	6	○結婚生活と健康 (1) ○中高年期と健康 (1)	・ 心身の発達と結婚生活 ・ 加齢による変化と健康	・ 各単元テスト ・ 前期中間考查	
	7	○働くことと健康 (2) ○労働災害と健康 (1)	・ 労働と健康の関わりと問題 ・ 労働災害、安全と健康管理	・ 各単元テスト	
	8	○健康的な職業生活 (2) ○大気汚染と健康 (2) ○水質汚濁と土壌汚染 (2)	・ 仕事と生活調和 ・ 大気汚染と健康、環境 ・ 水質汚濁、土壌汚染と健康	・ 各単元テスト	
	9	○食品の安全性 (2) ○食品衛生にかかわる活動 (1) ○保健サービスとその活用 (1)	・ 食品の安全と環境の保健 ・ 食品の安全性と衛生管理 ・ 保健行政と保健サービス	・ 各単元テスト ・ 前期期末考查	
	前期目標				
	後	10	○医療サービスとその活用 (1) ○医薬品の制度とその活用 (1)	・ 医療機関と医療サービスの活用 ・ 医薬品の種類と使用法	・ 各単元テスト
		11	○さまざまな保健活動や社会的対策 (2) ○健康に関する環境づくりと社会参加 (2)	・ 健康を支える保健活動 ・ 環境づくりと社会参加	・ 後期中間考查
12					
1					
2					
3					
後期目標					

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期考查、単元テスト、ノート提出、普段の学習態度等で評価する</li> <li>・ 観点別学習状況の評価の3観点を基本として評価する。</li> </ul>		
評価の観点	【知識・技能】	・ 生涯的な健康や環境と健康について、理解できているか。	50%
	【思・判・表】	・ 学習内容について、将来を見据えて考えることができているか。	30%
	【主体的態度】	・ 自身の健康に関心を持ち、意欲的に授業に参加しているか。	20%

教科名	芸術		科目名	美術Ⅱ	学年	2
教材	教科書	高校生の美術2 [日本文教出版]			単位数	2
	副教材	なし			履修区分	共通
学習の目標	1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。					
	2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。					
	3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。					
学習の進め方	1) 課題を通し表現やデザインの工夫について理解を深め、表現力を高めていきます。					
	2) 多様な発想を生み出す力を高めるとともに、他者の制作意図や工夫を感じ取る力を高めます。					
	3) 教科書、配付資料、参考作品を鑑賞し、表現活動やデザインの役割や機能について理解を深めます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	オリエンテーション	・科目の目標や内容について理解する。 ・1年間授業の流れを理解する。	シラバスを配布し、1年間の流れを説明。
	5	鉛筆デッサン① ・実技 ・鑑賞	・モチーフの配置や構図を意識して描く力を身に付ける。 ・様々なモチーフの質感、色味を描き	鉛筆の使い方の復習と題材に合わせ質感や色味の描き方を学び、課題を提出。
	6	デザインの目的や機能① ・インテリアデザイン ・ライフデザイン	・主に家具のデザインについて学び、その歴史や様式、特徴や工夫について理解する。	名作家具から近代家具を中心に学びます。調べ学習後にそれぞれが学んだことについてレポートを提出。
	7		・デザインの考え方や意図について学び、機能や形態を考えたデザインを制作する。	グループワークを実施予定。 課題を提出。
	9		・デザインスクール ・レポート作成(名作椅子について)	デザインスクールで学んだ名作椅子についてのレポートを提出。
前期目標				
後	10	鉛筆デッサン② ・実技 ・鑑賞	・モチーフの量感を描く力を身に付ける。 ・モチーフの位置関係や距離感など、空間の表現を意識して描く力を身に付ける。	コース別に分かれ実施予定。 前期で学んだ知識や技術を応用した課題を行う。
	11			
	12	デザインの目的や機能②	・作品制作。 ・画像の加工方法について学ぶ。	・3年時のレポート制作、卒業制作発表に繋げる。
	1		・プレゼンテーション資料(レポート)の作成。 ・発表と鑑賞。	・高大連携授業で学んだフォントによる印象の違いや、写真撮影方法、レイアウトを意識してまとめる。
	2			
	3	まとめ	・1年間の授業の振り返り。	
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の取り組みの観察、教師とのやり取りやワークシートからの見取りで評価します。</li> <li>提出された作品・課題から評価します。</li> <li>様々な観点から総合的に評価します。(詳細については授業内で配布する評価規準表を参照)</li> </ul>		
評価の観点	【知識・技能】	創造的な視点について理解を深めているとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるか。	35%
	【思考力・判断力・表現力】	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ることができるか。	35%
	【主体的に学習に取り組む態度】	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度が身についたか。	30%

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	学年	2 学年
教材	教科書	Vivid English Communication II NEW EDITION (第一学習社)		単位数	3
	副教材	①フレーズで英単語 3000 ②改訂版第2版 キクタンリーディング Basic 4000 ③Real life ListeningI		履修区分	共通
学習の目標	1 英語による指示や、説明の概要を理解する。様々な英語を聞いたり読んだりして理解できる。				
	2 学習した内容や自分の経験・知識について、分かりやすい英語で話すことができる。				
	3 身近な出来事や自分について、やさしい英語で読み手に伝わるように書くことができる。				
学習の進め方	1 教科書をベースに、様々なタスクを通して学習した内容を用いて話す・書く練習をします。				
	2 ALTとの面接やペアワーク、英作文課題などで表現力を高めます。				
	3 ファイルや課題の提出、小テストなどを通して、学習した内容の理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	○各授業の最初の10分～20分で実施する帯活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元テスト</li> <li>・ 振り返り提出</li> </ul>
	5	①単語テスト ②英作文Writingテスト ③中学校文法の総復習テスト	④Listnening活動 ⑤ALTのプレゼンテーションを聞く ⑥英作文の練習	
	6	Lesson1 Pictograms — Useful Signs on Streets	標識について学ぶ。 進行形・受け身 / S+V+C(=現在分詞・過去分詞) / seem to ~	
	7	Lesson2 Fun with Pakkun	パッくんについて学ぶ It is ... (for A) to ~ / S+V+it+C+to ~ / All you have to do is (to) ~	
	8			
	9	Lesson3 Origami Is Not Just a Piece of Paper!	折り紙について学ぶ It is + 形容詞 + that-節 / S+V+it+C+that-節 / S+V+O+O(=名詞節)	
前期目標	速読力や精読力を高める。(Inputの語彙力、文法力) リスニング、ペアワークを通じ、表現に必要な語彙を定着させる(リスニング力、スピーキング力) 小テストを通じて、Outputの単語力を伸ばす			
後	10	Lesson4 Numbers Talk	数字と文化について学ぶ。 関係代名詞の制限用法 / 関係代名詞の非制限用法 / 完了形 / 完了形(受け身)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元テスト</li> <li>・ 振り返り提出</li> </ul>
	11			
	12	Lesson5 The Doctor in the Stomach	内視鏡についてまなぶ 群動詞(受け身) / 進行形(受け身) / 関係副詞の制限用法 / 関係副詞の非制限用法	
	1	Lesson6 Nature for the Next Generation	世界遺産について学ぶ。 関係代名詞の制限用法 / 関係代名詞の非制限用法 / 完了形 / 完了形(受け身)	
	2			
	3			
後期目標	高校基礎段階の理解力と文法力を身に付け、プレゼンテーションやレポートの学習に慣れ、「思考力・判断力・表現力」を向上させる。			

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への積極的参加や態度、定期考查・小テスト、振り返りの提出状況等を総合的に評価します。協力してペアワークやグループワークに臨みましょう。</li> <li>・ 英語科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。</li> </ul>		
評価の観点	【知識・技能】	知識を理解し、身に付けるとともに、聞いたり読んだりして理解している。	40%
	【思・判・表】	話し合い・意見の交換ができ、情報や考え等を簡潔に書くことができる。	50%
	【主体的態度】	積極的な態度で言語活動に参加し、英語力の向上に努めている。	10%



教科名	家庭科	科目名	家庭基礎	学年	2
教材	教科書	家庭基礎 ともに生きる 明日をつくる		単位数	2
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 一生と家族・福祉・衣食住・消費生活に関する基礎的知識を身につける。				
	2 家庭や地域の生活課題を主体的に解決し、生活の充実向上を図る。				
	3 実習を通して調理の基本的技能を身につける。				
学習の進め方	1 教科書を中心に、基礎的・基本的知識を学びます。				
	2 調理実習を行って、調理の基礎技術を学びます。				
	3 プリントやレポートを通して自身の考えを表現する力を学びます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	I ともに生きる 第1章 人の一生と家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>人生ってなんだろう</li> <li>青年期の課題とは？</li> <li>家族ってなんだろう</li> </ul>	
	5	第2章 保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族と社会のかかわり</li> <li>子どもはどう育つだろう</li> <li>親になるとはどういうことか</li> </ul>	
	6	第3章 高齢者	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを取り巻く環境は</li> <li>どう高齢化するのだろうか</li> <li>超高齢社会の課題</li> </ul>	・ノート、ファイル提出
	7	第4章 共生社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>共生ってなんだろう</li> </ul>	
	8	II 明日をつくる 第1章 食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活を見つめてみよう</li> </ul>	
	9		<ul style="list-style-type: none"> <li>食品の選択と取り扱い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期期末考查</li> <li>ノート、ファイル提出</li> </ul>
前期目標				
後	10		<ul style="list-style-type: none"> <li>献立づくりと調理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理実習</li> </ul>
	11	第4章 消費生活 第2章 衣生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人暮らしに必要なものは？</li> <li>なぜ服を着るの？</li> <li>衣服の成り立ちと性質</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理実習</li> <li>ノート、ファイル提出</li> </ul>
	12		<ul style="list-style-type: none"> <li>衣服の管理</li> </ul>	
	1	第3章 住生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>だれが暮らしているのだろうか</li> <li>どのように暮らす？</li> <li>これからの住生活とは？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年末考查</li> <li>ノート、ファイル提出</li> </ul>
	2			
	3	第5章 環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境のためにできること</li> </ul>	
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考查、小テストの成績、プリントの取り組み状況、宿題の提出状況、レポート等の表現力、実験・観察レポートの内容で評価します。</li> <li>家庭科の観点別学習状況の評価の3観点を基本として評価します。</li> </ul>		
評価の観点	【知識・技能】	定期考查、実習レポート、ノート、ファイルの状況	30%
	【思・判・表】	定期考查、実習レポートなど状況。実習での様子	30%
	【主体的態度】	実習レポート、ノート、ファイルの提出状況。授業内での様子	40%

教科名	美術		科目名	美術概論	学年	2
教材	教科書	なし			単位数	2
	副教材	なし			履修区分	美術選択
学習の目標	1 芸術としての美術の意義や基礎的な理論について理解を深めることができる力を養う。					
	2 創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美術に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。					
	3 美術を専門的に学ぼうとする意欲や態度を養う。					
学習の進め方	1 美術の歴史を学び、美術の意義や基礎的な理論について理解を深めます。					
	2 演習を通し、造形的な見方・考え方を形にする力を身につけます。					
	3 様々な作品の制作意図や時代背景を理解するとともに、自己の作品についての理解を深めます。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目の目標や内容について理解する。</li> <li>・1年間授業の流れを理解する。</li> </ul>	
	5	美術の歴史と技法研究①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術、工芸、デザインにおける表現とは何か、著名な作品の鑑賞から技法研究や実験的演習を通して芸術への理解を深める。</li> </ul>	
	6	美術の歴史と技法研究②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名画の鑑賞を通して、時代、様式、技法の理解を深める。</li> </ul>	
	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現形式の特性を生かし、形体、色彩、構成など、創造的な表現の構想について理解を深める。</li> </ul>	
	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現材料の効果的な生かし方や用具について学び、意図に応じた表現方法の工夫について理解を深める。</li> </ul>	
	9	レポート作成①		
前期目標				
後	10	美術の歴史と技法研究③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産権・肖像権について適切な理解と尊重する態度を養う。</li> </ul>	
	11	美術の歴史と技法研究④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や自然と美術とのかかわり、生活や社会を心豊かにする美術の働き、美術の変遷について考え、理解を深める。</li> </ul>	
	12		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解に果たす美術の役割を理解する。文化遺産としての美術の特徴と文化遺産等を継承し保存することの意義を理解する。</li> </ul>	
	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きを考え、創造的な表現の構想を練る。</li> </ul>	
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現材料の効果的な生かし方や用具について学び、必要な技能を身に付け意図に応じて表現方法を工夫し作品制作をする。</li> </ul>		
	3	レポート作成② 美術概論のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習を通し、自己の作品について理解を深める。</li> </ul>	
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の取り組みの観察、教師とのやり取りやワークシートからの見取りで評価します。</li> <li>・提出された作品・課題から評価します。</li> <li>・様々な観点から総合的に評価します。(詳細については授業内で配布する評価規準表を参照)</li> </ul>		
評価の観点	【知識・技能】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術としての美術の意義や基礎的な理論について理解を深めることができたか。</li> <li>・学んだ理論を実践する力が身についたか。</li> </ul>	30%
	【思・判・表】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形的な見方・考え方を働かせ、美術に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を身につけることができたか。</li> </ul>	40%
	【主体的態度】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術を専門的に学ぼうとする意欲や態度を養うことができたか。</li> </ul>	30%

教科名	美術		科目名	絵画	学年	2学年
教材	教科書	なし			単位数	4
	副教材	なし			履修区分	美術選択
学習の目標	1 油彩画や日本画の制作など創造的な諸活動を通して様々な技法について学び、理解を深める。					
	2 表現や鑑賞の視野を広げ、独自の考えや発想などを絵画作品に表現する力を養う。					
	3 他者の作品のよさを感じ取り、自己、自然、社会を見つめ主題を生成し、豊かな心情を育てる。					
学習の進め方	1 与えられたテーマに則って、自分の考えや発想を元に主題を設定します。					
	2 色彩や構図などの構想を立て、材料や用具の理解を深めながら制作します。					
	3 作品鑑賞を通して美術史と表現の特質について学び、表現と鑑賞の視野を広げます。					

期	月	単元名	学習時間	具体的な学習内容	考查等	
前	4	オリエンテーション 画材研究①	1 h 2 4 h	学習内容、目標について理解する。 選択したテーマに合った作品づくり 岩絵具、水干絵具の扱い方 額縁制作、キャプション制作、展示要領 ※作品発表会	制作記録 長期休業中の課題	
	5	↓				
	6	絵巻物	4 5 h	構図と物語の研究、エスキース検討 水彩絵の具等の扱い方 日本固有の表現様式について ※中間発表会		
	7	↓				
	8	↓		キャプション制作 ※作品発表会	夏季休業中の課題	
	9	画材研究②	2 5 h	選択したテーマに合った作品づくり マチエールの工夫 適切な画材選択		
	前期目標					
	後	10	↓		※作品発表会	制作記録
		11	↓			
12		油彩	4 4 h	油彩による表現の基本、主題の生成 題材の捉え方、エスキース検討 構図の基本 油彩画制作の手順 ※中間発表		
1		↓				
2		↓		キャプション制作、展示要領 ※作品発表会		
3		1年間のまとめ	1 h	1年間の制作の振り返り、卒業制作への意識付け		
後期目標						

評価方法	授業中の取り組みの観察、教師とのやり取りやワークシートからの見取りで評価します。 提出された作品・課題から評価します。 様々な観点から総合的に評価します。(詳細については授業内で配布する評価規準表を参照)		
評価の観点	【知識・技能】	画材・道具を適切に扱い、効果的な表現ができたか。	40%
	【思・判・表】	主題から様々な造形要素を踏まえ、適切な表現方法を選択し制作することができたか。	30%
	【主体的態度】	主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組むことができたか。	30%

教科名	工芸	科目名	図法・製図	学年	2
教材	教科書	インテリア製図 (実教出版)		単位数	2
	副教材	なし		履修区分	工芸選択
学習の目標	1 JIS規格を基にした図面作成の基礎的な知識を身につける。				
	2 JW-CADの使用法と図面作成と技法を学ぶと共に製図読図能力を身につける。				
学習の進め方	1 1学年で学んだ知識と技能を発展させ、JIS規格に基づいた図面作成の方法を学ぶ。				
	2 練習問題を基にCADの適切な使用法を学ぶ。				
	3 実際の作成のための図面作成能力を身につける。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	○JW-CAD導入	・CADソフトの機能と操作方法について学びます。	
	5	○JW-CAD 課題	・基本的な操作を基に練習課題に取り組みます。 ・CADでの作図を通し、JIS規格の復習を行います。	
	6			
	7			課題提出
	8	作図課題1	・作図の基礎の復習とCADソフトでの寸法の入力方法を学びます。 ・J I S規格に則った作図を行います。 ・図面に必要な情報の選択について学びます。 ・他者の図面との違いから図面に必要な情報について考察を行います。	
	9			課題提出
前期目標				
後	10	作図課題2	・実物からの採寸を基にした作図作成。 ・使用法の取得度に応じた小課題を数回行う。 ・図面の役割を理解し、整理された作図を学びます。 ・他者の図面との違いから図面に求められる役割を理解します。	
	11			
	12			課題提出
	1	作図課題3	・制作において必要となる図面の作成を見据えた作図課題を行う。 ・条件を基に、作品制作を見据えた作図の手順を学びます。 ・実際の作品制作に結びつく作図について学びます。	
	2			
	3			課題提出
後期目標				

評価方法	課題の提出状況、課題の達成度及び課題の取り組みに対する意欲と態度により総合的に評価します。		
評価の観点	【知識・技能】	J I S規格や、CADの使用法を理解し、図法の活用に向け知識や技術を習得しているか。	40%
	【思・判・表】	作業工程や進度に応じ適切かつ整理された作図作成及び読図できるか。	30%
	【主体的態度】	制作における図面の役割を理解し、意欲的に取り組んでいるか。	30%

教科名	芸術（工芸）	科目名	木工制作Ⅱ	学年	2 学年
教材	教科書	なし		単位数	4
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 安全指導をとおして危機管理への意識を高めるとともに制作における責任感を養う。				
	2 大型機械の使用法の習得と作品の制作をとおして、家具の基本的な構造を学ぶ。				
	3 制作の過程をとおして、立体的な感覚を養い、豊かな人間性の形成を目指す。				
学習の進め方	1 座学と実習により安全指導を行う。				
	2 課題の制作をとおして基本的な設計・構造・加工方法を学ぶ。				
	3 大型機械を使用した実習を行う。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	オリエンテーション 止血法について 大型木工機械使用法	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画について</li> <li>評価方法について</li> <li>様々な止血法について</li> <li>製材の一連の流れについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習への取組</li> </ul>
	5	枠組を用いた作品制作 ・大型機械による製材加工	<ul style="list-style-type: none"> <li>クロスカットソーについて</li> <li>手押し鉋盤について</li> <li>自動送り鉋盤について</li> <li>横挽き盤について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習への取組</li> <li>制作段階の進捗 機械製材終了 道具の手入れ</li> </ul>
	6	・組立に向けた加工	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほぞの構造と種類について</li> <li>だぼ組の構造について</li> <li>枠組の構造と加工について</li> <li>木取りについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作段階の進捗 材のあら取り～ 機械での基本加工終了</li> </ul>
	7		<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な製材加工</li> <li>部品図をもとにした大型機械による基本的な製材</li> <li>部品の数量と寸法の確認</li> </ul>	
	8		デザインスクールに向けた名作椅子について	
9				

前期目標				
後	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>組立、素地調整</li> <li>作品の塗装</li> <li>最終組立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>だぼ接ぎの構造の理解</li> <li>木取り、基本的な製材加工</li> <li>部品図をもとにした大型機械による製材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習への取り組み</li> <li>制作段階の進捗 機械製材の終了 道具の手入れ 機械での基本加工終了</li> </ul>
	11		<ul style="list-style-type: none"> <li>部品の数量と寸法の確認</li> <li>組み立てに向けた細部の加工（手加工や小型機械）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作段階の進捗 細部の加工の終了 仮組み 塗装の終了 提出</li> </ul>
	12		<ul style="list-style-type: none"> <li>仮組、組立</li> <li>塗装前の素地調整</li> <li>塗装</li> <li>部品の取り付け</li> </ul>	
	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>資料をもとにした課題研究におけるアイデアの活用の仕方や設計について</li> <li>素材、表現技法について</li> </ul>	
	2		課題研究に向けたオリエンテーション	
3				

後期目標				
------	--	--	--	--

評価方法	授業での進捗、制作に対する意欲、関心、態度を加え総合的に評価します。			
------	------------------------------------	--	--	--

評価の観点	【知識・技能】	大型機械の安全で効果的な使用方法を理解し、加工工程を考え適切な作業ができたか。	40%
	【思・判・表】	工程や進捗を考慮し、計画的に段取りよく作業を行うことができたか。	30%
	【主体的態度】	機械加工や手加工に興味を持ち、安全で意欲的に取り組むことができたか。自他の作品や工芸作品の良さを感じ取り、自己の制作に活かすことができたか。	30%

教科名	工芸		科目名	工芸制作		学年	2
教材	教科書	なし				単位数	4
	副教材	なし				履修区分	工芸選択
学習の目標	1 基本的なデザインと作品作りを組み合わせ技術的、創造的に発展させた作品制作を目標とします。						
	2 制作の過程をとおり造形的視野を広めるとともに感性を磨き豊かな人間性の形成を目指します。						
学習の進め方	1 テーマをもとにデザインと機能を考える基礎的な課題の制作を行います。						
	2 習得した技術を自己の作品に生かし実際に制作します。						
	3 他の作品を鑑賞し自らの作品作りをより高める工夫をしていきます。						

期	月	単元名	具体的な学習内容	考查等
前	4	○ガイダンス ●制作課題1 (オリジナルの箱) ・制作	・1年間の流れを理解する。 ・設定された課題の制作を行う。	・デザインの事前学習をする。 ・制作の手順や技法の考察をする。
	5		・鑿や鉋の扱いなど、1年生で学んだ技術を活かしつつ、塗装などの新たな技術を学ぶ。 ・計画を立てて作業することの重要性を知る。	
	6	・まとめと発表	・作品の完成と提出	・制作に必要な情報を考察し作品の決定・制作を行う。
	7	●制作課題2 (3本脚スツール) ・制作	・課題内容を考察し作品の制作を行う。 ・治具の活用、旋盤、ビスケットジョイントなど、新たな技術を学ぶ。	・制作に必要な情報を考察し作品の決定・制作を行う。
	8		・用途や機能性を加味したデザインを行う。	
	9	・中間発表	・中間発表	
前期目標				
後	10			
	11	・まとめと発表	・作品の完成と提出	・自らの制作をまとめることで成果を確認する
	12	●制作課題3(グループワーク) ・制作	・テーマの設定と計画、構想 ・設計、模型製作 ・試作と検討、プレゼンテーション	・デザインの事前学習をする。 ・テーマと制作物の構想 ・テーマをどのような手段で実現するかを構想する。
	1	○卒業制作発表 鑑賞	・3学年の卒業制作発表にて、次年度制作への意識付けを行う。	・他者との学びを共有する
	2	・プレゼンテーション		
	3	○1年間の振り返りと発表	・資料のまとめと発表	・自らの制作をまとめることで成果を確認する。
後期目標				

評価方法	評価の観点をもとに計画の進め方、制作、制作資料から経過ごとに総合的に行う。		
評価の観点	【知識・技能】	課題に関する知識の習得と技法の追及ができる。	40%
	【思・判・表】	課題と繋がる計画と表現を追求した制作を進めることができる。	30%
	【主体的態度】	課題に対し制作の計画をもとに主体的に制作を進めることができる。	30%